

## 英語同時通訳法の授業について

神山 美保

私は鳥飼玖美子先生の英語同時通訳法の抽選でもれてしまい、単位に関係なく聴講という形で参加していました。だからといって私は別に“ガリ勉”タイプの生徒ではありません。ただ女の子がプラダが大好きなように私は英語が大好きなだけです。でもそんな私がこの授業を“憂鬱”と感じたのはめずらしく、前の日に胃薬を飲むこともしばしばありました。それはこの授業自体が嫌いなのではなく、授業中での自分の未熟さを毎回思い知らされるからです。ほとんど自分との戦いでもありました。私にとってこのクラスは、英語なんか聞けて話せて当たり前、問題は自分の時事問題、世界情勢の知識と理解をふまえた上で、それらをどう理解し、うまく自分の言葉で日本語、英語にするかでした。中学生以来久しぶりに、“間違えてもいいから答えてみよう”と手を挙げて発言しました。授業後は、疲れきっていながらも確実に、何かを得たという満足感と、“もっと勉強しなくちゃ”という思いを与えてくれる授業で、決まってその日の帰りは英字新聞を買って読みあさり勉強に燃えました。いつも自分を高めてく

れる、自分を一番引き出してくれる、そして、よいプレッシャーを与えてくれる授業でした。

授業の中でマクベイン先生の講演での逐次通訳のお話を聞いたとき、私の中に迷いはありませんでした。“やってみたい！”。友達はどうするか聞いてみると、“私は英語にそんな自信ないしできないよ、やめとく”と言う子がほとんどでした。私こそそんなに自信はなかったし、こんな事できるとは思いませんでした。でも、私は不思議と“不安”より、“とにかくやりたい、やってみよう！”という気持ちの方が強かったのです。

私は「人生マイナスになることなんて無い、もしそれをマイナスだと思わなければ」という信念を持っていたので、挑戦してみることにしました。

そして講演のテーマと英語のレジメ（講演での台本のようなもの）を手渡された時、私はそのテーマを見て、「…ムリ…」と思いました。そのテーマとは、「夫の暴力（Domestic Violence）による精神的外傷を持つ妻達への精神的配慮」でした。講演へ向けての勉強は並ならぬものでした。Domestic Vio-

lenceの本を読んだり、ひたすら専門用語を暗記したり、英語のレジメをテープに吹き込んでそれを流しながら逐次通訳をしていく練習などありとあらゆる方法で講演に備えました。緊張は高まるばかりで、夜夢の中でも勉強をするほどでした。

講演の前日、マクベイン先生が他の講演をする予定があったので、発音の癖や雰囲気をつかむためにその講演に出席しました。そこには日本の Domestic Violence の第一人者と呼ばれる方や、専門家などが集まっていました。質問も日本語でも理解できないほどのレベルで、私の不安は頂点に達していました。なぜならマクベイン先生の英語を日本語にする逐次通訳とその他に、私は日本語の質問を英語に同時通訳して彼女に伝えるという役だったからです。翌日を本番に控え、私は耳に入ってくる全ての日本語を英語にしていくという練習をしました。

本番当日講演で使うはずの台本が来客者全員に間違いで配られてしまうなどのハプニングがあり、開始30分前に“台本は読まないで、経験談などを話す”などと言われ、もちろん私を含め5人ともパニック状態になりました。(しかし結局ほとんど台本に基づいた形になりました。)しかし、本番は今までの不安や緊張など忘れてしまうくらい集中しました。間違いはしましたが、今までの勉強の成果と力は私なりに十分に出せたと思います。心配していた

質問タイムでは恐れていた通り、昨日難しい質問をした人が手を挙げました。私は21年間の人生の中で一番集中したと思います。その理解できない質問を聞き、同時に英語にして伝えるのはやはり難しく、自分の声で質問が聞き取れなかったりとうまくいかず鳥飼先生にフォローして頂きなんとか無事に終わりました。

私は今回多くのことを学びました。通訳とは専門用語を覚えるのも大切だけど、講演者の伝えたいことをどれだけ分かりやすくかつ正確に伝えるかが大切であると。また、これからの課題も増えました。もっと英語を勉強して、もう一度挑戦してみたい。また今回得たことを次のステップに活かしていきたい。英語を通していろんな事を学び、自分を高めていきたいと私は思っています。やる気と努力とプラス思考！これさえあれば、不可能だと思えることもやり遂げることができると実感しました。そして、その一歩が自信につながるのです。私にとって今回の試みは大きな一歩になりました。これからももちろん前に進み続けたいと思います。そして、最後にこのチャンスを与えて下さり、熱心に教えていただき、私たちを支えて下さった鳥飼先生、本当にありがとうございました。

(かみやま みほ  
本学文学部英米文学科3年次)